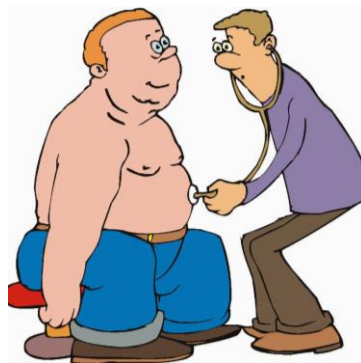


セマグルチドの肥満者に対する減量効果

米国 South Carolina 大学の Patrick M O'Neil 氏らは、BMI が 30 以上で 2 型糖尿病ではない肥満成人に、生活指導に加えてセマグルチド、リラグルチド、プラセボを 52 週間皮下投与し、減量効果を評価するランダム化フェーズ 2 試験を行い、セマグルチド群の減量効果が有意に大きかったと報告。結果が Lancet 誌に掲載されました。



セマグルチドの1日の用量は、0.05mg、0.1mg、0.2mg、0.3mg、0.4mgの5グループとし、リラグルチドは3.0mgとしました。セマグルチドは0.05mg/日から開始して、4週ごとに目標用量まで増量しました。なお、0.3mgと0.4mgのグループには、2週毎に増量する急速増量群も用意しました。リラグルチドは0.6mg/日から開始して、1週間に0.6mgずつ増量しました。



食事と運動に関するカウンセリングも4週間毎に実施。摂取エネルギーは、本人の消費エネルギーの総量より500kcal少ない量を目標としました。運動の目標は、運動の強度は問わずに、1週間に150分以上運動することを推奨しました。

52 週時点で体重減少割合の平均は、プラセボ群が-2.3%、リラグルチド群が-7.8%、セマグルチド 0.05mg 群が-6.0%、0.1mg 群は-8.6%、0.2mg 群は-11.6%、0.3mg 群は-11.2%、0.4mg 群は-13.8%で、セマグルチド群には用量依存的な体重減少が見られました。



52 週時点で 10%以上の減量を経験した参加者は、プラセボ群では 10%、セマグルチド 0.1~0.4mg（4 週ごと増量）では 37~65%でありました。

最も多かった有害事象は消化器症状で、主に悪心、下痢、便秘などでありました。これらの有害事象は用量が増えると参加者の訴えが増加する傾向を示しました。

